

情報クリップ

農業情報ピックアップ

●1/27 水増し申請分、輸入牛でつじつま合わせる偽装
雪印食品の関西ミートセンターが、国の「牛肉在庫緊急保管対策事業」で架空の国産牛肉約1・4tを水増し申請していた問題で、申請した分量に合わせるため輸入牛肉を保管先の「西宮冷蔵」に送り込む偽装工作をしていたことが新たに明らかになった。
この肉も豪州産で、国産牛肉の箱に詰め替えており、その作業はミートセンターで行っていた。
(毎日)

トビックス

1/15 英政府が口蹄疫終息宣言

英政府は、昨年春から秋にかけて猛威を振るったウイルス性の家畜伝染病、口蹄疫の流行終息を宣言した。欧州大陸にも汚染を広げ、畜産業や観光に甚大な損害をもたらした災厄に、ひとまずピリオドが打たれる見通しとなった。

政府が3万カ所あまりの農場で約300万頭の家畜を調べた結果、口蹄疫感染が疑われるものは0・03%にとどまった。英国内では過去3カ月、新たな感染は報告されおらず、政府は終息宣言に踏み切った。近く、EUの欧州委員会などに食肉の輸入禁止措置を解除するように求める。
(朝日)

1/18 米国産鶏肉の輸入一部再開

家禽ペストの発生で米国産の鶏肉などの輸入を一時停止している農水省は、食肉処理された時期が昨年11月11日以前であることが米政府機関の書類で証明できるものについては輸入を認めると発表した。

家禽ペストが米国に侵入した時期が昨年11月12日と推定されるため、第三国で加工され、対日輸出される米国産鶏肉などの輸入停止が広がる。スーパー、生協

止措置についても同様に取り扱う。
(共同)

1/24 外食デフレ進行、客単価3・8%減

ファミリレストランや牛丼、居酒屋チェーンなどの外食産業でつくる日本フードサービス協会は、全国約1万7000店の20001年の売り上げ状況を発表した。

業界全体は既存店ベースで前年比3・3%減。客単価は既存店ベースで3・8%下がり、「外食デフレ」の進行を裏付けた。業種別では昨年9月以降の狂牛病騒動のあおりを受けて、家族連れ向けの焼き肉店が大幅に落ち込み、前年比15・1%減だった。
(朝日)

雪印・牛肉

1/23 雪印食品の牛肉虚偽申請めぐり調査開始

大手食肉会社「雪印食品」の関西ミートセンターが、狂牛病発生にともなう国の牛肉買い取り制度をめぐる、輸入牛肉を買い取り対象の国産牛肉として申請していた問題で、農水省は、関係者から事情を聴くなど、調査を始めた。
(朝日)

1/24 雪印の商品撤去や取引停止広がる スーパー、生協

輸入牛肉すり替え事件の影響で、スーパーなどで同社製品を撤去したり、取引停止に踏み切ったりするところが出てきた。イトーヨーカ堂では、食品を扱う178店で、雪印食品の7品目の販売を中止した。東急百貨店本店も開店から、同社の精肉部門の商品のみ店頭から撤去した。同百貨店の他店舗でも、店ごとの判断で同様の対応をしているという。首都圏1都5県の生活協同組合210店の共同仕入れをする「コープネット」は、加工肉を中心にした約30品目について当面入荷の取りやめを決めた。
(毎日)

1/28 北海道産牛を熊本産と偽装か

雪印食品関西ミートセンターが、国内初の狂牛病感染牛が確認された昨年9月、北海道産の牛肉数10キロを熊本県産と偽って出荷、販売していた疑いのあることが、農水省などの調べでわかった。同省は、牛肉など生鮮食料品の産地表示を義務付けたJAS法違反の疑いがあるとして、同センターなどを立ち入り検査する。
(読売)

1/29 保管中のすべての牛肉への調査を検討

武部農水相は、「牛肉在庫緊急保管対策事業」の対象となっている国産牛肉のすべてについて調査・点検を実施する方向で検討を始めたと明らかにした。

雪印食品以外の企業でも不正がないか、徹底調査したいとしている。狂牛病の全頭検査前に解体処理された食肉は、全国259カ所の倉庫に約1万2600tが冷凍保管されており、段ボール箱で約92万箱にのぼる。当初は3月末ま

でに焼却するはずだったが、焼却を遅らせてもすべての箱を検査したいという。
(毎日)

2/4 偽装牛肉、沖縄で大量販売

雪印食品関西ミートセンターが「熊本産」に偽装した輸入牛肉を沖縄県内で大量に販売していたことが兵庫県警などの合同捜査本部の調べでわかった。

販売量は昨年未だに確認されただけでも約1・65tに上っている。偽装された輸入牛肉の販売ルートが判明したのは初めて。
(読売)

狂牛病

1/11 肥料用の蒸製肉骨粉使用を解除

農水省は、狂牛病の発生で停止している飼料・肥料用の肉骨粉の製造、出荷のうち、肥料用に使う牛の「蒸製骨粉」など、一部を解除したと発表した。

蒸製骨粉は、骨を高温、高压で長時間処理して製造する。使用にあたっては、BSEの危険性がある部位を除くことや、国際的な基準の加熱・加圧処理がなされているなどの条件をつけた。また、ペットフード用にクジラやイルカの肉骨粉を使うことも認めた。
(朝日)

1/25 廃用牛を国が買い上げる方針固める

政府・自民党は、狂牛病問題で農家に滞留している廃用牛を国が買い上げる方針を固めた。買い上げ価格は乳牛が1頭4万円、肉牛は同5万円の方向で、農水省が財務省と調整している。実際に買い上げるのは畜産・酪農関係の業界団体で、その費用を国が負担する

仕組みを考えている。
 買い上げ後の処理方法は固まっていけない。狂牛病検査については、食肉処理場で行うか、農場で行うかなどを検討中。
 (毎日)

1/29 「食品安全庁」新設へ 農水・厚生労働省機能統合

農水省と厚生労働省は、食品行政に関する双方の一部機能を統合し、新たに「食品安全庁」を設置する方向で具体的な検討を始めた。行政側の対応が後手に回り、狂牛病を未然に防げなかったとの批判にこたえ、消費者から生産農家に至るまで食品の安全性を包括的に監督する体制づくりが不可欠と判断した。

両省は早ければ今国会中にも関連法案を提出、2002年度にも同庁を設置する見通しだが、将来的に「消費者保護庁」を新設する案も浮上しているという。
 (共同)

2/7 牛1頭ずつの履歴情報を 消費者に 小売り大手で取り組み

牛肉の内容表示への不信感の高まりを受けて、小売り業界で牛1頭ずつの情報を来店客に公開する仕組みづくりが始まった。産地から流通経路までの履歴をデータベース化して瞬時に取り出せるようにするもので、高島屋が1月から売り場を開設。スーパーのイオンは3月から実験を始める。

高島屋は1月16日に東京店など4店で始めた。生年月日や生産者、与えた人工乳や飼料、抗生物質の投与歴など35項目を出荷者の記録などを基にデータベース化。売り場では、その肉がどの牛のものか、数頭の幅で特定でき、備え付けの表で全項目を確認できる。
 (朝日)

コメ関係

1/18 「生産調整研究会」が初会合
 コメ政策の抜本的見直しの一環として、食糧庁が設置した「生産調整に関する研究会」の初会合が開かれた。同庁は、現行の作付面積による生産調整(減反)をやめて、計画生産数量でコメ生産を管理する方式を提案しており、同研究会はその具体的な手法や助成のあり方などを詰めていく。同庁はこの方式を03年度から適用することを目指し、3月末までに食糧法改正案を通常国会に提出する方針だ。生産調整の見直しと併せて、同研究会は計画流通制度に替わる新しい供給制度の内容についても協議する。
 (毎日)

1/25 米国産米の国内流通を一 時停止

農水省は、米国産米の輸入時の米袋(30kg入り)の一部から、食品衛生法で定めた基準値を超える鉛を検出したことから、米国産米を含む輸入米の国内流通を一時的に停止するよう卸売業者に要請した。政府が保管している輸入米73万t(米国産米52万t)も販売を一時的に凍結する。同省によると、樹脂でできた米袋を着色する顔料に基準値を上回る鉛が含まれていたという。袋内のコメからは鉛は検出されず、すでに消費された輸入米に鉛が含まれていた可能性は小さいと見ている。
 (朝日)

1/25 自主米値下がり続く

2001年産自主流通米の第9

回入札が自主米価格形成センターで実施され、平均落札価格は60kg当たり1万6016円と昨年12月の前回入札に比べ119円下がった。前回は約400円急落しており、コメ消費の低迷や消費者の低価格志向をあらためて浮き彫りにした形だ。上場68銘柄のうち下げ幅が大きかったのは、富山県産コシヒカリの473円をはじめ、宮城県産ササニシキの351円、栃木県産コシヒカリの299円など10銘柄が1000円以上の下げとなった。
 (共同)

1/29 輸入米の販売、豪州産は 凍結解除

食糧庁は、一時的に国内の流通を凍結している輸入米のうち、オーストラリア産米の販売を解禁したと発表した。同国からの輸入米を包装する袋の安全性が確認できたため。一方、包装袋から法定基準値を超える鉛が検出された米国産米については、輸入時に使われる袋の安全性調査を引き続き進めている。
 (時事)

テクノロジ

1/12 組み換え昆虫の農場実験 害虫駆除の新技术目指す 米国

農薬を使わない害虫駆除技術の確立を目指し、遺伝子を組み換えたガをネットに囲った農場に放す初の実験を米農務省などの研究グループが昨年行っていたことが分かった。不妊遺伝子などを組み込んだガを作り、繁殖を抑制するための基礎実験だが、環境保護団体などからは反発も出そうだ。実験

したのは同省のフェニックス植物防衛センターとカリフォルニア大学。
 (共同)

1/24 豚にホウレンソウの遺伝子
 豚にホウレンソウの遺伝子を組み込んで、脂肪の一部を植物性油の主成分であるリノール酸に変えることに、入谷明・近畿大生物理工学部教授を中心とする共同研究グループが成功した。植物の遺伝子をほ乳類の個体で正常に機能させることができたのは世界で初めてという。同グループは食べ過ぎると高脂血症などを招く動物性脂肪を「よりヘルシーに改善できた」としており、食用を目的とした遺伝子組み換え動物の開発に、新たな可能性を開く成果として注目されそうだ。
 (共同)

1/29 オオムギ遺伝子 3品種 間の違いを発見

ビール醸造や味噌づくりなどに使われるオオムギ3品種間の遺伝子の違いを約1000カ所見つけたと岡山大学と国立遺伝学研究所の研究チームが発表した。

遺伝子の違いが品種間の性質の違いを生んでおり、違いを詳しく解析すれば品種改良や発酵食品の効率的な生産法の開発につながる。研究チームは今回の発見を特許出願した。
 (毎日)

2月のイベント

(国内)

●2002スーパーマーケット・トレードショー 3月5〜8日
 会場 東京ビッグサイト
 内容 食品スーパーマーケットを

中心とする流通業界に最新情報を発信する専門展
 主催 日本セルフ・サービス協会
 問い合わせ 0332554825
 公式サイト <http://www.jssa.or.jp/smts/>

●国際食品・飲料展 (FOODEX JAPAN 2002) 3月21〜25日
 会場 幕張メッセ
 内容 外食流通・小売業界向け食品・飲料に関する専門展示会
 主催 日本能率協会
 問い合わせ 0334341377
 公式サイト <http://www.jma.or.jp/FOODEX/>

(海外)

●Alimentaria 3月4〜8日
 会場 Fira de Barcelona
 (スペイン・バルセロナ)
 内容 精肉・魚介類、果物・野菜、食品、菓子、飲料、アルコール、乳製品、フードサービスの9つの分野からなる見本市
 主催 ザ・リード・エグジジション・カンパニー・リミテッド(イギリス) 日本連絡事務所
 問い合わせ 0334091085

●INTERNORGA 3月8〜13日
 会場 MesseGelaende
 (ドイツ・ハンブルク)
 内容 ヨーロッパでもっとも歴史が古く、最大の食品・飲料見本市。約15%が海外からの出展となっている
 主催 ハンブルク見本市日本代表部
 問い合わせ 0335860415

97 農業経営者 2002年3月号